

# 檜原憲法九条の会ニュース

## No42

事務局・連絡先 樽門 075-391-0567 下山 075-392-3861



池田桂子作

守ろう！  
憲法九条  
21世紀の宝

あじさい寺（矢田寺）

### 片目のお地藏さん

矢田寺の参道にはお地藏さんがたくさんおられます。お地藏さんの片目は開かれています。じつと世の中を見ておられるようです。令和に、再び戦争の道につき進んでいくのではないか・・・国民の苦しんでいる姿を見て、片目を閉じることが出来ないのではないだろうか・・・



目を閉じてきいてください

幾千の人の手足がふきとび腸（はら）わたが流れ出て人の体にうじ虫がわいた息あるものは肉親をさがしもとめて死がいを見つけ そして焼いた人間を焼く煙が立ちのぼり罪なき人の血が流れて浦上川を赤くそめたケロイドだけを残してやつと戦争が終った

だけど・・・  
父も母も もういない  
兄も妹ももどつてはこない  
人は忘れやすく弱いものだから  
あやまちをくり返す

だけど  
このことだけは忘れてはならない  
このことだけはくり返してはならない  
どんなことがあっても・・・

（2019年8月9日

田上市長の「長崎平和宣言」より）



どんぐり  
団栗帽子

トランプくんや

アベくんよ」

ツイッターや外国でしゃべらず  
議会で堂々と議論できないの？  
自分の好きな時や場所ではなく  
反対意見も聞かなきゃ

トランプくんはよその人だけど  
私たちの国のアベくんたちは  
消費税10%に増税まで一カ月  
日韓間の問題もこじれてきて  
経済に影響が出始めたのに  
相手批判と強がりばかりで  
正当な外交交渉で対処できない  
トランプくんにも遊ばれてる

国会を開いて国民の声を聞き  
もうお手上げなら解散して  
新しい人に政治を任せなさい

（誠）



写真・文 福島百合子  
2019年8月

# ～戦争のない未来を子どもたちに～ 西京平和のつどい

2019・9・8(日)10時～19時  
洛西境谷会館において開催

## 人間魚雷「回天」 出撃直前に終戦 平和を祈る！ 日本万歳！で出撃 戦没者145名(平均年齢21.1歳)

朝日朝刊2015年11月6日より

平和のつどい、午後1時から220人以上集まり、元人間魚雷「回天」の訓練を受けた、瀬川清さん96歳から鬼気迫る体験談を聞きました。

### 瀬川清(せがわきよし)さん 96歳

1944年3月、慶應義塾大学予科2年時に学徒動員徴兵される。12月に佐世保の海軍に入隊後に横須賀の対潜水兵学校に移動。その後特殊潜航艇人間魚雷「回天」班に配属される(少尉)。別府湾の大神特攻基地で特攻訓練中に終戦となる。

### 「回天」で特攻玉砕作戦

1944年12月、海軍は小型潜水艇(人間魚雷の「回天」隊)を出撃させ劣勢を巻き返そうとした。「回天」に爆薬(1.5トン)を積んだまま敵艦に体当たりするという玉砕作戦を実行にうつした。

私は、1945年より別府湾に面した特攻基地の大神で訓練を受け始めた。

教官から「これが貴様らの棺桶だ」と言われて震えた。不気味なものだった、ゾツとした、という。

その訓練は兵学校出の人、予備学生、予科練の人の一組5名で受けた。チャップリンの言葉に「人殺したら殺人、100人殺したら英雄」を思い出した。「回天」で船を沈めたら何百人も殺すことになるが、人でなく船が相手だから関係ないとごまかしていた。

回天に乗るときは、自分から怖いという考えを無視してスポーツ感覚になろうとした。しかし、一人になると不安になり怖くなった。トイレに入るのが怖かった。いつもトイレの鏡にその恐怖の顔が映っていた。半年くらい訓練を受けて、その頃は「どまかく死ぬんだ」と思う自分になっていた。

目測で目標に当たる訓練は難しい。別府湾の大神から佐賀ノ関の煙突を目標に潜航し、近くまで行き、グルッと回って帰ってくる。これを10回ほど訓練する。その次は実際の船を目標とする航法艦襲撃法の訓練となる。相手のスピード、方位角、後方角など見定めるこの訓練は一番難しい。

私はまだ潜る訓練を5回やっただけだったので潜水艦艦長が苦笑いしながら、目を瞑っていても当たるところまで連れて行ってやるから心配するな」と言われた。

戦争について、予備学生は少し疑問をもっていたが兵学校出の人は頭から自分はお国のために死ぬんだと言い放っていた。

20年8月10日頃、急に訓練が少なくなった。どうやら戦争が終つたらしい。とにかくほっとした。私は25回の訓練が完了すれば出撃だった、その直前の5回で終戦になった。

(レポート 事務局Y.T)



戦争体験、人間魚雷「回天」の体験を語る

瀬川さん96歳(中央)と左は奥さんの紀子さん、右は今西さん



遊就館に展示されている回天1型  
ハッチの開閉は手動で内部から開けられた。  
全長約15m、直径約1m(一人乗り)  
(ウィキペディアより転載)



巡洋艦「北上」に搭載された  
回天1型の発射訓練

忘却を思う  
〜 祖母の話 ② 〉

精神科ソーシャルワーカー

山田龍亮

祖母の生い立ちを聞いてみると、楽しく近所の子どもたちとあそんでいた時代から、いつの間にか戦争に巻き込まれていたような印象を受けます。祖母も、住んでいた場所の近所も、兄弟姉妹の多い家が多く子どもたち同士であそび回っていた時代から、女学校に進学し、気づけばいつの間にか世の中が戦争の影に覆われ、否応なしに当事者となっていく流れは、映画『この世界の片隅に』の展開と共通です。



第三次建物疎開 50メートル以上の幅で家並みが破壊された堀川通り。家並みが破壊された跡は焼け跡と同じような悲惨な状態。中央の奥に見えるコンクリート建物は旧堀川高女。右側道路は一筋西の葭屋町通り。(撮影：昭和21年)  
(インターネット 戦争と京都より転載)

あの作品も、平凡な日常だと思っていた時間が、実はすでに戦争が染み込んでいて、生活や人生が支配されていたのだという、戦争は《戦闘そのもの》だけではないことを強く感じさせる作品でした。

祖母は女学校に進学しましたが、ほとんど勉強する間もなく、勤労奉仕が始まったそうです。今の堀川通から鷹峯の方まで歩かされ、そこで農家の手伝いをさせられたそうです。しかし何の知識もないままですから、せっかく耕した畑の畝を平にしてしまったり、随分農家に迷惑をかけたと思います。学校は工場になり、生徒にとっては勉強より農業や工業が主になっていく、その話の流れのなんと自然なこと。学生の身分である勉強を全うできなくなり、教育を受ける権利を剥奪されていく過程が、あまりに自然な流れの中で起こっていきます。

## 強制疎開あたり前として・

学校の目の前は、今の堀川通ですが、かつてはもっと狭い通りだったそうです。建物疎開が始まり、それまでであった家屋が次々と取り壊されていくところを、祖母らは学校の窓から見ていたそうです。建物疎開の影響で、今のような広い堀川通になったそうですが、その他、御池通や五条通も同じような理由で、現在のような広い通りになったとか。

清水通につながる松原通に住んでいた祖母によると、松原通も建物疎開の対象になっており、かなりの家屋が撤去されたそうですが、一軒、柱の強い家屋があり、その取り壊しが困難で、撤去が計画通りに進まず、その間に終戦を迎え今の道幅のままになったそうです。当たり前に通っている道も、住んでいる街も、戦争がなければ現在とは全く違う姿をしていたということは、今を生きている人にとっては便利な面もあるかもしれませんが、その時代の当事者としては、住んでいた家を奪われ、街を奪われていくということです。

## 戦争の前兆に自覚を・

戦争の前兆は《奪われること》だと思えます。家を奪われ、街を奪われ、権利を奪われ、選択肢を奪われ、自由を奪われるー奪われたと聞くと強制的に、泣く泣く失っていくというイメージですが、否、現実には奪われたという自覚すら持てないほど自然な流れによる喪失です。そして強要も強制も、義務や常識として市民の《あたり前》にして定着させる。気が付いた時には、権利も自由も喪失し、生きづらい社会の中で、戦争に巻き込まれているものだと思うと、現代の社会の在り方と重なるところが多々あります。



映画「この世界の片隅に」から

